

人間発達研究所通信

1998年9月3日学術刊行物認可第430号
ISSN 0913-7092
Vol. 27(2)
人間発達研究所
大津市朝日が丘 1-4-39
梅田ビル 3F
Phone/Fax 077-524-9387

人間発達研究所第27回総会報告

第27回総会が2011年6月19日に開催され、2010年度活動報告および決算報告、2011年度活動方針、予算が承認され、運営委員が選出されました。意見交換では、会員同士の研究や実践の交流を深めることが大切であると、「発達保障学校でレポートを書くことを目標にしたい」「自分が活動する地域で会員の交流を進め研究活動に取り組みたい」「研究をすすめるスキルを身につけたい」「若い人たちと育ちあうような研究活動をしたい」「実践現場で生かされる発達診断を行いたい」「発達のチェックリスト、検査スケールを提案したい」等といった積極的な意見が出されました。

2011年度の活動方針（概略）

1. 2011年度の重点課題

発達保障論が提起されて半世紀が経ちます。今年度はその意義を確かめ合い、発達保障論をさらに広める年にします。人間発達研究所の「人間発達を自主的集団的に研究し、発達科学の創造的発展と実践・研究の今日的課題にこたえる」（規約第2条）との設立された原点に立ち返り、会員一人ひとりの研究や学習の願いを实らせ、交流・対話を大切にします。そして、研究活動が活発になされるなかで、新たな入会者を増やすことを目標とします。

①会員の活発な研究活動への支援について

会員の研究成果の普及に努力し、研究活動が活発となるよう支援を進めます。また、会員の研究交流を進めるためにメーリングリストの作成もすすめます。

CONTENTS

総会報告	1
会員のページ	
書評 田中昌人の発達過程研究と発達保障論の生成 中村隆一	5
Una carta desde HONDURAS（ホンジュラスからの手紙）⑧ 佐々木規子	7
事務局だより	8

②研究所の安定的な財政について
研究所の財政面での安定を目指して、運営のあり方について検討を進めます。

③アーカイブ作成について
田中昌人前所長蔵書のアーカイブ化については、今後の作業の進め方について長期的な計画の検討を行います。なお、昨年要望のあった「田中昌人アーカイブ」(文章名)一覧については希望の会員に送付します。

④発達保障論半世紀企画(仮)の検討
発達保障論が提起されて約 50 年となることを記念して、発達保障論の普及のために講演会などの企画を実施します。

2. 2011 年度の活動予定

1) 第 26 回研究集会の開催(終了)
日時: 2011 年 6 月 19 日(日)
テーマ: 私たちは“集団”を人間発達という観点からどう議論できるだろうか——学童期に焦点をあてて——
実践報告:
竹中真美氏(富士見児童クラブ)
今泉祥子氏(京都府立向日が丘支援学校)
会場: 大津市ふれあいプラザ

2) 出版物の発行
人間発達研究所通信を 4 号(No.125 ~ No.128), 人間発達研究所紀要は, 22 号 23 号合併号(5 月 31 日発行済み), 24 号 25 号合併号を発行し, 26 号の企画をすすめます。通信は講座などの企画と

リンクした内容や, 会員の投稿原稿の掲載や原稿依頼を積極的に行っていきます。

3) 発達保障学校の開講
2011 年度は次のコースを開講します。
個人の発達の系概論コース: 中村隆一 / 人間発達と集団コース: 加藤直樹 / 発達保障実践論コース: 田村和宏 / (新) 記録記録の書き方コース: 竹沢清氏 / 発達基礎理論研究コース: 荒木穂積 / 発達診断各論コース乳幼児期の発達障害児の発達相談の方法: 松原巨子 / 発達診断方法論コース: 中村隆一

4) 第 24 回発達診断セミナー<心理専門職コース>の開催

日時: 2011 年 10 月 29 日(土) ~ 30 日(日)

テーマ: 学童期の発達と障害
会場: 滋賀県人権センター光荘

5) 人間発達基礎講座第 6 回の開催
日時: 2012 年 2 月 11 日(土) ~ 12 日(日)

テーマ: 9, 10 歳頃の発達(仮)
会場: 大津プリンスホテル

3. 2011 年度予算案について

より正確な処理, 明確な表記, 適切な判断ができることを目指し, 下記の科目等を見直しました。

①専従事務局員の人件費を事業会計からの支出とします。

②アーカイブ作成費を単独の科目として, 研究活動費から独立させます。

③引当金を「特別預金繰入金」に変更
します。

4. 運営委員と新年度役員

総会で承認された運営委員、および、
総会後の運営委員会で任命・互選された
役員は次の通りです。

所長 加藤直樹（立命館大学）
副所長 荒木穂積（立命館大学）
大泉溥（日本福祉大学）
田中きよむ（高知県立大学）
渡部昭男（神戸大学）

運営委委員長

中村隆一（立命館大学）

副運営委員長

西島悟司（おおつ福祉会）

事務局長

山田宗寛（佛教大学）

運営委員（あいうえお順）

荒木穂積
加藤直樹
川崎広和（滋賀県立聾話学校）
川幅善久
栗本葉子（おおつ福祉会）
黒田 学（立命館大学）
小原佳代（大津市役所）
斎藤 賢（滋賀県立八日市養護学
校）
坂本 彩（しが夢翔会）
嶋村伸子（人間発達研究所）
白石恵理子（滋賀大学）
高田智行（大津市役所）
武居 誠（びわこ学園）

武分祥子（飯田女子短期大学）
田村和宏（びわこ学園）
塚本正弘（団体職員）
中村隆一
西島悟司
藤上真由美（高石市役所）
藤野友紀（札幌学院大学）
村松大治（滋賀県立北大津養護学
校）

山田宗寛
山本翔太（久御山町役場） 新
退任
斎藤文夫

会計監査

赤木和重（神戸大学） 新
南方孝弘（びわこ学園）

紀要編集委員（あいうえお順）

荒木穂積（編集委員長）
斎藤賢
白石恵理子
黒田学
中村隆一
渡部昭男

付記

総会後の運営委員会において、経費削
減策として、紀要グラビアの廃止、会員
への紀要のメール配信（PDF ファイ
ル）切り替え呼びかけ、発達保障学校の
講師料見直し（講師が給与所得を得て
いる運営委員の場合4割の削減）を決定し
ました。補正予算を作成します。

会員から寄せられた意見の中に、「研究

所規約第6条2の『参加者』と4の『出席者』には使い分けがあるのか。また、第6条1の『招集』と第7条2の『召集』には使い分けがあるのか」という質問がありました。第6条の2は「出席者」、第7条2は「招集」の、どちらも表記の誤りです。これらについては、次の規約改定時に訂正することを確認しました。

総会に寄せられたメッセージより

・全国各地での会員の拡大と会員を中心として身近な地域で「目に見える」活動実践を創造していきましょう。困難なことですが、まじめに仕事に取り組んでいる仲間の心に触れる課題で研究会——懇談会も含め——語り合いを積み重ね、一年の成果を分かちあえるようになれば長続きしていけるのではないのでしょうか？

そして会員になってもらうことで財政にも寄与し、活動も活発化してくるのではないのでしょうか？ (小野正夫)

・保育現場・福祉現場での「発達保障」への関心は、一切衰えていないことを実感しています。田中先生が亡くなられた後、鳥取で有志が集まって毎月学習会をしています。鳥取では新規参加者はいるが、退会者はいないのが特徴です。当初は人間発達研究所発行のテキストを読み合わせしたりしていましたが、最近は現場に生じている数々の困難を題材にすることが多くなりました。それほど発達保障を脅かす動きが浸透してきたということでしょう。

気になるのは、若い世代においては人

間の奥深い発達の変化を省略して理解する傾向が強いことです。保育や教育において、医療化・司法化が展開され、保育や教育が発達に依拠して展開されていないことです。「自尊心」や「生きる力」が弱くなったのは、そもそも誰のせいなのでしょう。現象への対応だけに押しやられて本質を見失った構えが恒常化してしまったことに危機感を覚えます。私はこうした傾向に「対話」という武器を通じて楔を打ち込んでいきたいと思います。

(小林勝年)

原稿を募集しています！

人間発達通信への投稿

字数：1200字～7500字まで

期日：11月10日（12月発行分）

投稿の際はE-mailもご利用下さい。

匿名希望の場合は、その旨お知らせ下さい。次次号は3月発行です。

メール配信への切り替えを募集しています。

出版業界が紙媒体の発行から電子媒体での発行にと移行してゆくと思われれます。総会報告文中にもありますが、経費削減にもなることから、会員の人間発達研究所通信、および『人間発達研究所紀要』のメール配信への切り替えを呼びかけます。ご協力頂けると有り難いです。

メール配信への切り替えをされる方は、下記までメールでお知らせ下さい。

人間発達研究所

j-ih63su@j-ihd.com



紹介

大泉溥編：『日本のこども研究——明治・大正・昭和——第13巻 田中昌人の発達過程研究と発達保障論の生成』

(クレス出版 2011年2月)

中村隆一

田中昌人の研究の水脈をたどることを可能にする重要な一冊

大泉溥さん（人間発達研究所副所長・日本福祉大学名誉教授）が手がけておられる明治期以降の“日本のこども研究”シリーズの一卷として田中昌人さんの初期の著作がまとめ上げられたものが本書である。手にとると1300頁にもものぼる大部のものとなっている。

ここで取り上げられている田中昌人は、ご承知のように初代の人間発達研究所の所長であり、2005年11月18日に73歳で亡くなった。

人間発達研究所では、田中昌人の業績を保管し研究の足跡を記録してゆく作業をすすめているのだが、“田中昌人の残したものは何であったのか”という問いに直面する。そして彼の業績の水脈の広さと深さに身がすくんでしまうような感覚に襲われる。その中で、あえて研究の領域に限定して整理をすると、第1に発達研究、第2に指導の方法に関わる研究、第3に社会運動の担い手・組織者として解明・論及・研究、と大きく三つに分けることができるだろう。

中でも、1956年に大津市立南郷中学

校教諭兼近江学園児童指導員として近江学園に就職して以降、1970年に京都大学教育学部の助教授になるまでの15年間は、上記のような3つの方向性をもった水脈が「発達保障論」という大河になっていく文字通り生成の過程であったといえる。

本書には、1980年発行の『人間発達の科学』が復刻の形で再録をされているが、それ以外は、「田中昌人の初期著作」として5部構成をとり、加えて田中昌人自身が研究の過程を振り返ったいくつかの対談などを含む参考資料など68編、詳細な年譜、編集者である大泉溥さんの「編集余滴」からなっている。そして、ほとんどの資料が1950年代から1960年代までのものである。また、近江学園の学習発表会の「しおり」に寄せた文章など一般にはほとんど目にするのできないような貴重な資料も多い。その意味で、田中昌人の業績の水脈に迫ろうとするとき、本書が大きな役割を果たす。

田中昌人の理論構築の過程を「タテ、ヨコ、ウシロへの「変化」を客観的事実として把握するために」

同時に、この巻が成立した経過が、その独自の意味を高めている。

大泉溥さんの書かれた「編集余滴」に、その事情が詳しく述べられているが、実は担当しておられる「障害者心理学特講」の教材である。同じく「編集余滴」にもあるように、1960年代の障害のあるひとたちの福祉や教育が大きな転換を

なしているのであるが、同時に障害児研究のあり方をめぐっての「激しい議論が展開された時期」でもあったという時代背景、そこでの歴史的要請が田中昌人の研究に大きく影響を与えている。いや「影響」というような受動的なものではなく、そのような歴史的状況への広い意味での研究的な“格闘”があった。大泉溥さんは、それを深めるために、院生たちと田中昌人の研究の展開の「タテ、ヨコ、ウシロへの「変化」を客観的事実として把握」しようと積み上げられ、工夫をされてきたものであり、本書と解説・年譜とを読みながら、その授業の一端を、そして田中昌人の「変化」の過程の一面を追体験可能である。

時として、学ぶということがお手軽な調べものにすり替わってしまうことがある。あるいは、自分の見たいもの聞きたいことのみを探すというようなことになっていることにふと気がつく時がありはしないだろうか。しかし、理論的な再構成をとまなうような仕事に向き合おうとするとき、それで全体が見えたとはいえないだろう。なぜ、どのような理由である概念が必要となったのか、そこに至るまでの過程はどうであったのか、それはどのようにして妥当性の検証が可能であるのか、他の解釈の方向はなかったのか、そしてそこから私たちは何を継承すべきなのか、などなど私たちが向き合うべき問いは多いはずだ。

こうした生成の過程を追体験しながらより深く田中昌人とその研究から学ぼうとされる方の多くに是非読んでいただき

たいと思う次第である。

私のお宝

1950年代後半から1960年代の前半にかけて、「レオロジー」「極性化」など自然科学の知見に触発をされながら発達を生成の過程として把握しようとしてきた田中昌人が、最終的に発達研究上の基本概念として設定したのが「可逆操作」である。その理論的提起は、本書 p197からの「発達における可逆操作について」においてピアジェの可逆性を強く意識しながら整理をされている。

そうした新しい基本概念を自覚的に求めはじめた時期の報告の一つが、p187からの「発達心理学研究の方法について」(1963)である。また、「可逆操作」概念を用いて実際の発達を記述し、それとの関係で「次元」という「可逆操作」の変数を取り出したのが、1964年12月に書かれた「学習発表会のさいにたちかえらなければならないところ 学習発表会のしおり No1」(p.389)である。そして、その時の感動も生き生きと記されているのは、「全障研の結成と私の発達保障論」(pp747-830)である、というように、文字通り立体的にとらえることが可能である。こうした資料は、本書を通じて発見した「私のお宝」資料である。

ご購入のご案内

出版社のご好意により、この書籍を税・送料込 23,000 円でお分けしています(税込定価 26,250 円)。購入希望は人間発達研究所までご連絡下さい。



残暑お見舞い申し上げます。わたしは6月22日活動任期を終了し、ホンジュラスより成田に到着しました。帰国して約2か月はすべて日本での生活再開に向けて身辺・体調の整理に費やしています。日本のとても懐かしい景色と生活の風情に改めて感動しています。大震災の厳しい状況は変わっていませんが、住んでいる関西は電気、水道、交通など、異国で折につけ悩んだことを思えば雲泥の差です。また猛暑の中つらい夏ですが、この蒸し暑さが植物を育てていると思うと、やはり恵まれた自然を有難く思うのです。

さて、赴任期間の短かったテグシガルパの障がい児・者リハビリテーション研究センター（PREPACE）での教育活動を振り返ってみます。実質の教育活動期間は3月中旬から6月15日まででした。4か月という短期間に何を求められ何ができるか大変悩んだのですが、「音楽活動」と「個別指導」に絞り、施設のほとんどの利用者に接するように活動し、職員のみなさんと慣れ親しむことができ、最後は「ラモンが泣くよ」「シンディも日本に連れてって」「僕たちのことを忘れないで」等など暖かい言葉と「神様が

守ってくれますように」（熱心なカトリック信者の国なので）という言葉と共に文字通り全身に神様がやどりそうな熱烈な抱擁を受け、終了することができました。とくに個別で指導をしてきた7名の児童には愛着がわき、短期間で帰国せざるを得ないことがとても残念でした。音楽を通して交流が盛んになった青年たちとの関係も捨てがたく、指導の途中で終わらなければいけないことを大変申し訳なく思いました。

個別指導の課題は、先生を悩ます各クラスの動き回る子どもたちに「30分座って学習できるようになる」それだけだったのです。そしてこの個別指導では、日本で我が子を育てているときには気がつかなかった「型はめ」「なぐり描き」「ビーズ落とし遊び」「積み木遊び」など、それぞれの遊びの意義を短期間に再認識しました。わたしは今まで青少年期の方と過ごすことが多く、玩具で遊ぶことがあまりありませんでした。子どもの発達を踏まえ、ちょっとした工夫で集中して遊んでいる現地の子ども（障がいは自閉症、ダウン症、知的遅れ等、年齢5歳～13歳）に、「子どもって世界中どこも同じように発達していくんだなー」と実感しました。二次元の世界にある子には、ふたつの物から選んでもらい作業に入ると、きちんと最後まで作業をしていました。ホンジュラスの教育は自由選択、意思表示の機会が少なく、言われたことをこなす学習が主のように思いました。子どもたちが自分で選んで作業をするときは意欲が違います。そして区切り

も自分で上手につけていたように思います。ちょっと元気がなさそうな時は自分で課題を下げてきました。わたしはそれをのんびりと受止め、各児童の様子を観察することができました。

「なぐり描き」に関しては、先生達も意義を知らず、子どもにこの機会を与えてはいませんでした。「絵の発達」という観点はなく、ぬりえの作業を手を持ってさせるということをしています。子どもの線に単語を書き加えていくと、つたないわたしのスペイン語と自閉症児の数少ない言語表現が合うのか、子どもが単語をポツリポツリと言って来るので、わたしはとっても嬉しくなりました。

目と手の協応が苦手な子どもが自分の書いた線をじっと見つめている様子や、堅牢な積み木を積み上げていく「きっ」とした視線を見せ始めると30分の作業などなんのその、「もっともっと」と遊んでいました。こうして過ごした7名の児童との個別活動はわたしにとっても有意義な機会となりました。

ホンジュラスは政治不安や経済不安を多く抱え、教員も不安定雇用の状況にあります。「国民皆教育」にも「障がい児

の全員就学」にもほど遠く、そんな中でPREPACEがその意義を確固として掲げ、障がいを持った人を少しでも支えようと日々活動をしていることは本当に尊敬に値します。日本だけでなくヨーロッパ各国の教会関係の支援等を受け、しっかりと活動し続けてきている施設の存在を体験できたことは、わたしにとって数少ないホンジュラスへの信頼につながっています。

この国の国民の中にあるぬぐいきれない不安が少しでも早く期待に変わり、誰もが自由に安全に生きることができるようになることをわたしは願います。

連載の最後はやはりまとまりなく書ききれないことを数多く残してしまいました。長らく紙面を割いてくださったこと、本当に感謝いたします。読んでいただいた方、ぜひ後継となり、世界中の現地支援に馳せてください。活動が終わって思ったことは、やはり障がい者支援は楽しい！でした。

どうもありがとうございました。それではまた。

(2011年8月22日)

寄贈本

(記入例) 著者名 発行年 表題・書名 発行所 寄贈者(著者・発行所と同じ場合は省略) 敬称略
障害乳幼児の療育に応益負担を持ち込ませない会編, 2011, 障害のある子どもと「子ども・子育て新システム」, 全国障害者問題研

究会出版部

折出健二, 2011, 行くに徑に由らず~仕事とエッセイ~

全国幼年教育研究協議会, 2011, 幼年教育2010年度 Vol.2, 全国幼年教育研究協議会

龍谷大学教育学会, 2011, 龍谷大学教育学会紀要 No.10, 龍谷大学教育学会

神谷栄司編著, 2011, 子どもは遊べなくなっ

- たのか——「気になる子ども」とヴィゴツキー＝スピノザ遊び理論——, 三学出版
- 福島大学附属幼稚園・大宮勇雄・白石昌子・原野明子, 2011, 子どもの心が見えてきた——学びの物語で保育は変わる——, ひとなる書房
- ひとなる書房, 2011, 現代と保育 No.79
- NPO 法人大阪障害者センター福祉現場のメンタルヘルス検討会, 立命館大学 峰島厚, 山本耕平, 北垣智基, 深谷弘和, 武庫川女子大学 大岡由佳, 2011, 障害者施設職員のメンタルヘルス調査報告書——約 1200 人の職務・精神健康度調査から——, 代表 峰島敦司
- 和歌山寄宿舍教育研究会, 2011, 和歌山県寄宿舍教育研究会 30 周年記念誌「いってらっしゃい」, 和歌山寄宿舍教育研究会
- 小沢浩, 2011, 愛することからはじめよう——小林提樹と島田療育園の歩み——, 大月書店
- 世界思想社, 2011, 世界思想 No.38, 高谷清
- 高谷清, 2011, 論考「パーソン論」は「人格」を有さないとする「生命」の抹殺を求める, 西日本重症児施設協議会広報 第 9 号 別冊 (抜刷), 西日本重症心身障害児施設協議会
- 土佐市障害者生活実態調査研究会, 2011, 土佐市における障害者生活実態調査報告, 土佐市障害者生活実態調査研究会, 森澤允清
- 土佐市障害者生活実態調査研究会, 2011, 要約 土佐市における障害者生活実態調査報告と提言, 土佐市障害者生活実態調査研究会, 森澤允清
- 土佐市障害者生活実態調査研究会, 2011, 「自立と共生」障害者の生活実態とこえ——土佐市障害者生活実態調査報告から——土佐市障害者生活実態調査研究会
- 基礎経済科学研究所, 2011, 経済科学通信 No.125, 基礎経済科学研究所
- 鈴木勉・田中智子, 2011, 現代障害者福祉論 (新版), 高菅出版
- 滋賀保育問題研究会, 全国保育問題研究協議会編集委員会, 2011, 保育問題研究 No.248, 新読書社
- 障害者問題研究編集委員会, 2011, 障害者問題研究 Vol.39 No.1, 全国障害者問題研究会
- 鹿児島子ども研究センター, 2011, 鹿児島子ども研究センター研究報告第 13 号, 鹿児島子ども研究センター
- 佐藤友子, 2011, 心の扉を開く——生徒・保護者と向き合い, つながる——, クリエイツかもがわ
- 清水寛, 2011, 川合章さんに学んだ思い出——学生時代から埼大の教員になった頃まで——, 生活教育 No.752 (抜刷)
- 渡部昭男, 2011, 日本の就学法制に係る障害者権利条約を踏まえた検討課題——特別支援教育の在り方に関する特別委員会「12/24 論点整理」を素材に——, 地域学論集 (鳥取大学地域学部紀要) 第 7 巻第 3 号 (抜刷)
- 柳原邦光・光多長温・家中茂・仲野誠編著, 2011, 地域学入門——<つながり>をとりもどす——, ミネルヴァ書房
- 荒木穂積 (国際共同研究 編集担当), 2011, 東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関する国際共同研究——平成 20 年度～ 22 年度最終研究報告書——, 立命館大学人間科学研究所
- 全国幼年教育研究協議会, 2011, 幼年教育 2010 年度 Vol.3, 全国幼年教育研究協議会

滋賀保育問題研究会, 2011, 保育問題研究 No.249, 全国保育問題研究協議会編集委員会, 新読書社

近藤幹生, 寶川雅子, 源証香, 小谷宜路, 瀧口優, 2011, 実践につなぐ ことばと保育, 0, 0, ひとなる書房

ひとなる書房, 2011, 現代と保育 No.80,

鹿児島子ども研究センター, 2011, かごしまの子ども第 28 号, 鹿児島子ども研究センター, 鹿児島子ども研究センター

小畑耕作, 2011, ひろがれ! 学びの場——障害者にゆたかな青年期を——, 全国障害者問題研究会出版部

土岐邦彦, 2011, ラフ (Rough)・ラブ (Love)・ライブ (Live) ——障害をもつ若者たちの発達と演劇——, 全国障害者問題研究会出版部

林万里 (監修), 2011, やさしく学ぶ からだの発達, 全国障害者問題研究会出版部

二通諭, 2011, 映画で学ぶ特別支援教育, 全国障害者問題研究会出版部

家平悟, 2011, 生きたい! 家族とみんなと, 全国障害者問題研究会出版部

白石正久, 2011, やわらかい自我のつぼみ——3歳になるまでの発達と「1歳半の節」——, 全国障害者問題研究会出版部

池上洋道・中村八郎・NPO 法人多摩住民自治研究所, 2011, 大震災復興へのみちすじ——防災政策の新段階と地方自治体の政策活動, 自治体研究社

滋賀県人権センター, 2011, 人権スクラム～ワークを通して広がる世界——わかりやすい研修のアイデア集——滋賀県人権センター

芦澤清音, 2011, 発達障がい児の保育とインクルージョン——個別支援から共に育つ保

育へ——, 大月書店

障害者問題研究編集委員会, 2011, 障害者問題研究 Vol.39 No.2, 全国障害者問題研究会

近藤直子, 2011, 1歳児のこころ——大人との関係の中で育つ自我——, ひとなる書房

立命館産業社会学会, 2011, 立命館産業社会論集 Vol.47 No1, 立命館大学産業社会学会

日本体育大学紀要編集委員会, 2011, 日本体育大学紀要 Vol.40 No.2, 日本体育大学 (8月末日まで)

活動報告

5月6日, 13日, 20日, 27日

運営委員会

- 9日 事務局会議
- 14日 発達保障実践論コース
- 15日 2010年度下半期会計監査
- 18日 発達障害研究会
- 20日 高齢期プロジェクト
- 21日 人間発達と集団コース
発達診断セミナー事務局
- 22日 個人の発達の系概論コース
- 28日 発達基礎理論研究コース
発達診断各論コース
学齢期の学力と発達を考える
研究会

6月3日, 10日, 17日, 24日

運営委員会

- 11日 発達基礎理論研究コース
- 12日 実践記録の書き方コース
- 17日 はっぽけん(発達保障研究会)
- 18日 人間発達と集団コース
発達診断各論コース
- 25日 発達保障実践論コース

26日 個人の発達の系概論コース

19日 第26回研究集会

第27回総会

紀要編集委員会

7月1日, 9日, 15日, 22日

運営委員会

6日 発達障害研究会

7日 田中テキスト勉強会

9日 発達基礎理論研究コース

10日 発達診断セミナー事務局

16日 人間発達と集団コース

17日 実践記録の書き方コース

22日 高齢期プロジェクト

23日 発達保障実践論コース

発達基礎理論研究コース

発達診断各論コース

個人の発達の系概論コース

27日 紀要編集委員会

30日 はっぼけん(発達保障研究会)

8月4日 田中テキスト勉強会

5日, 19日 運営委員会

8日~9日 人間発達と集団コース

21日 個人の発達の系概論コース

27日 発達診断各論コース

寄付を頂きました

山内 千晶さん 池田 浩美さん

新規会員の方 到着順

夏見真奈美さん 万野 友紀さん

山本美佐子さん 松永 朋子さん

今井 文子さん 杉谷 悠子さん

園田 佳子さん 倉木 朋子さん

佐藤 智子さん 細田 智子さん

森岡 宏子さん 森本 創さん

剣物 和弘さん 西垣 順子さん

(8月末日まで)

『人間発達研究所紀要』第26号 への投稿のお誘い

紀要への投稿は会員の権利です。みなさんの実践研究や取り組みの成果をまとめて投稿してみませんか！

投稿区分は「原著論文、実践記録、事例研究、資料、その他」です（詳細は人間発達研究所ホームページにある「執筆規定」をご覧ください）。研究所までご請求下さい。査読者との丁寧なやりとりと修筆作業によって投稿原稿が質を高めていく醍醐味を、是非貴方も味わって下さい。

記

締切期日 2012年1月10日(火)

消印有効

字数 20000字

(400字詰原稿用紙50枚まで)

○投稿希望の方は2011年11月末日までに「氏名、所属、連絡先、投稿仮題、投稿区分」を人間発達研究所までお知らせ下さい。

○非会員の方が投稿する場合は、事前に入会手続きが必要です。

研究助成費の下半期の締切は2011年10月末日です。

人間発達研究所研究助成費利用規定

1. 目的と対象

会員の人間の発達に関する学習などの研究活動を援助することを目的とする。

申請者は人間発達研究所会員であるこ

と。集会の場合、参加者は人間発達研究所会員に限定しないが、会員が1名以上参加していること。

2. 使途

前項に要する費用のうち、以下の費用を使途とする。

①研究会・学習会等集会の開催に関する会場費・講師料など、②調査活動に関する郵送料や交通費など、③すでに調査や研究を終えた報告集などの買い取り。

3. 限度額

1件5万円を上限とする。

4. 助成の募集期間

募集は年2回、4月末までと10月末まで。

5. 申し込み方法

会員は申請様式に記入して人間発達研究所に申請する。

6. 交付の決定

申請に基づき、予算の範囲で運営委員会で可否を決定する。

7. 報告

終了後は、規定の報告様式に従ってすみやかに報告を提出すること。

編集後記

少し古いのですが、

脚本家の倉本聰さんの文章に（豊かさの根っこ Vol.2, 2005）、都会の若者に生活必需品を聞いたところ、上位3つが、金、携帯、テレビだったとあるのを知りました。「お金がなくては生きていけない」のが生活実感（実態）の日本。「費用対効果」という言葉が教育や福祉、保育の分野でも使われる時代、丁寧な問直しが必要だと思ったことでした。（N.S）

発達診断セミナー

<心理専門職コース>

テーマ 学童期の発達と障害

日程 10月29日（土）～30日（日）

会場 滋賀県人権センター「光荘」

参加費 研究所会員 10,000円

会員以外 12,000円

締切 2011年10月21日（金）

※専用申込用紙をご請求下さい。ホームページにも案内があります。

ゼミⅠ 小淵隆司氏（北海道教育大学釧路校）

学童期を見通した地域における
幼児期からの発達支援

ゼミⅡ 別府哲氏（岐阜大学教育学部）

学童期における高機能自閉症児
の発達とその支援

ゼミⅢ 今泉祥子氏（向日が丘支援学校）

集団とともに育つ

ゼミⅣ 高城寛志氏（発達相談員）

自治体における心理職の果たす
役割

ゼミⅤ 内田伸子氏（お茶の水女子大学）

考える力を育てることばの教育

人間発達研究所

〒520-0052 滋賀県大津市朝日が丘

1-4-39 梅田ビル3階

TEL/FAX 077-524-9387

E-mail j-ih63su@j-ihd.com

URL <http://www.j-ihd.com/>

年会費 5,000円

振込口座（郵便）01010-7-32709

加入者名 人間発達研究所

※学生の会費割戻しはお問い合わせ下さい。